今年度の参加報告と次年度調査に向けて
～今年１年またはこれまでの振り返りから今後、私が調査したいことを探す～

池谷　明子

1．今年度の参加報告

今年度の成ゼミの活動は、書籍の要約と子ども食堂やフードパントリーや学習支援等への活動参加である。しかし、子ども食堂の形として会食型は新型コロナウイルスの感染拡大が起こらないようにするため会食型として実施することが困難であるため子ども食堂よりも食材配布をするフードパントリーへの活動参加が多かっただろう。実際、ゼミの仲間の報告もフードパントリーでの開催での活動報告が多かった。

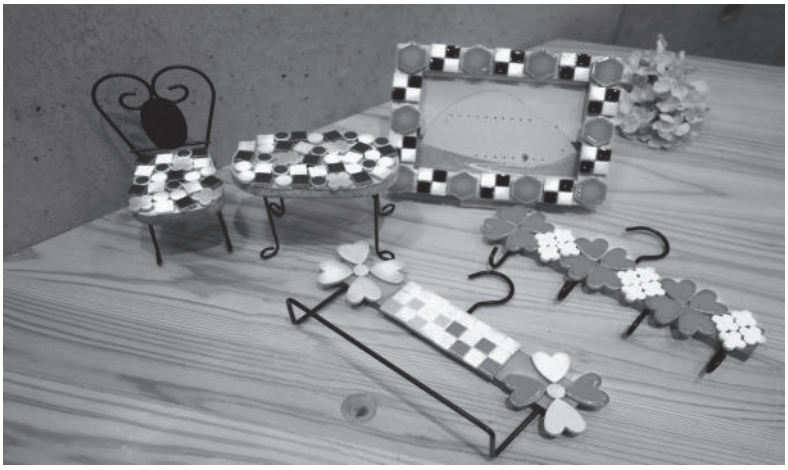
まず、書籍の要約である。前期は『「シカゴ学派」の社会学―都市研究と社会理論、著松本康』、後期は『貧困とはなにか―概念・言説・ポリティクス - 著ルース・リスター、監訳松本伊智郎、訳立木勝』を各章ごとに読みながら要約し分からない箇所があればゼミのなかで質問し理解するようにしていた。要約の仕方として最初は、全員が個々に１章または２章分要約してきた形をとっていた。しかし、個々で履修している科目の課題やアルバイト等の理由から１人１章分すべてを要約してくることが大変となった。対応策として、後期のゼミの後半の回から１章のなかでも５等分に分けることで一人にかかる負担が少なくなった。このようにした結果、自分の担当部分に集中することができ、より要約しやすく理解しやすくなった。

次に、子ども食堂や学習支援への活動参加では、前期も後期も活動参加できていない。詳しい理由は、今回省略させていただくが、体調がすぐれないことが多かったことがこの１年半続いていてなかなか活動参加できていない理由である。

後期は、書籍の要約をしつつ、11 月あたりから子ども食堂や学習支援をしているところを探し始めた。場所を決めるにあたって、ずっと想っていたことや考えていたことがあった。私は高校生の時から、大学を卒業したら地元岐阜県で就職したいという想いがあり考えていた。きっかけは高校生の時、部活動として岐阜市青年会議所が主催しているまちづくり活動に２年生と３年生の時に参加したことがきっかけである。この活動を簡単に言えば、岐阜県のものを使い、既存の形から発展させたものを作り、夏休み入ったぐらいの日に発表会みたいな形でイベントを開き、イベントに来場してくださった人たちにそれを体験してもらい改めて岐阜県の魅力を知ってもらう活動だ。

２年生の時に参加した活動では、私はアート部門を担当した。イベントに来場してくださった人にはハーバリウムを作ってもらい、隣に設置してあったハーバリウムタワーに飾ってもらう。このハーバリウムに使われる材料は、本格的にやれば完成までに材料費がとてもかかるため、中に入れる花や葉は 100 均で販売されている造花を使用し、中に入れる液体は洗濯材を使用した。作った後は、写真を撮ってもらう。これをイベントに来場してくださった人によって撮った写真を Instagram に載せ発信してもらいインスタ映えを狙った。しかし、ハーバリウムだけではインスタ映えを狙えないし、岐阜のものを使っているわけでもないということでハーバリウムタワーの後ろにインスタ映えを狙えるようなものを作った。そ

のためにあるものを使ってそれを貼り付けたものを作った。そのあるものとは、岐阜県の多治見市で有名なモザイクタイルである。皆さんは多治見市がモザイクタイルで有名だったことを知っていただろうか。私は、このまちづくり活動に参加するまで多治見市というと夏場の気温が埼玉県熊谷市と並んで40.9℃と猛暑地域という認識でしか知らなかった。だから、改めて岐阜の有名なものを新たに知ることができて良かった。また、「MOSAIC　TILE MUSEUM」という場所がある。ここでは、モザイクタイルを使った展示物があったり、写真のようにモザイクタイルを使って自分だけのオリジナル小物が作れる体験工房もあったりする。このモザイクタイルを使用したバックパネルを事前に私たちスタッフ側が作りそれをハーバリウムタワーの後ろに置いてハーバリウムタワーと一緒に写真を撮ってもらいインスタ映えを狙った。この作ったハーバリウムは思い出になるようにイベントに来場し体験してくれた人に引換券を事前に渡しといて他のイベントに行っている間に飾っておいて最後に家に持ち帰れるようにした。



3年生の時は、入浴剤の担当だった。入浴剤の形はお菓子で使うような型抜きを使って香りは岐阜の自然豊かな香りを使ってイベントに来場してくださった人に作ってもらいこちらも思い出となるように引換券を用意し、入浴剤が固まるまで乾かしといて最後に家に持ち帰って使ってもらえるようにした。しかし、反省点として型から入浴剤がきれいにとれなかったり、固まりづらく型崩れしやすかったり、2年生の時のハーバリウムの時もそうだったのだが、持って帰ってもらうはずがイベントに来場してくださった人が持ち帰るのを忘れることがあった。

この活動に参加したことによって成果や反省点が分かった。そして、改めて岐阜にはもっと伝えたい魅力が沢山あることを知ることができた。

活動時の写真がこちら。（入浴剤の時の写真がありませんでした。すみません。）

↑①ハーバリウム　②ハーバリウムタワーとモザイクタイルで作ったパネル・絵柄はイベントのロゴ　③２年生の活動時のアート部門の説明看板

この高校生の時の活動が、将来自分のやりたいことを明確にした。私が将来やりたいことは、自分が生まれ育った町である岐阜の魅力をもっと沢山の人に知ってもらうための活動をしたい。だから、このゼミ活動の参加場所も岐阜県内、もっと範囲を絞り岐阜市内で活動参加したいという想いを抱いた。

そこで、先ほども述べたように 11 月あたりから子ども食堂や学習支援をしている活動団体を探すためにあらゆるインターネットサイトを見ていた中で沢山の団体が子ども食堂や学習支援を岐阜県内で行っていることが分かった。特に、私は岐阜市内で活動したいという想いがあったため、岐阜市内の子ども食堂や学習支援団体を探した。岐阜市内も沢山の団体が子ども食堂や学習支援の活動をしていたことが分かった。本来ならば、私が住んでいる場所以外のところも行くべきだと思うが、岐阜市で活動したいという私のこだわりがあり、それを考えたときにある程度の土地勘があり尚且つ移動しやすい場所が無理せず自分のペースでできると考えた。それをふまえた結果、10 ヶ所で子ども食堂や学習支援等の活動をしてい

る団体が見つかった。それぞれ紹介したいと思う。

① ポポロ学習支援室
活動内容：学習支援・食事提供・居場所づくり・相談支援
② 岐阜キッズな（絆）支援室・てらこや無償塾・てらこや子ども食堂
活動内容：学習支援・食事提供・居場所づくり・相談支援・地域づくり
③ おばあちゃんの子ども食堂西っ子
活動内容：食事提供
④ スマイル
活動内容：学習支援・食事提供・居場所づくり・相談支援
⑤ 学習支援室いっぽ
活動内容：学習支援・居場所づくり
⑥ 「梅子の家」子ども食堂
活動内容：食事提供・居場所づくり・多世代交流・地域づくり
⑦ おばあちゃんちの子ども食堂
活動内容：食事提供
⑧ わいわい子ども食堂
活動内容：食事提供・居場所づくり
⑨ 子ども食堂 Mahalo
活動内容：学習支援・食事提供・居場所づくり・相談支援
⑩ 岐阜のえだ豆
活動内容：食事提供

この 10 ヶ所の活動団体の活動内容を見たとき、主となる活動が食事提供や学習支援であることが分かった。そこにプラスして、居場所づくりや相談支援、地域づくり、多世代交流の活動をしていることが分かった。これらすべての場所が今現在も新型コロナウイルスのコロナ禍で活動しているかということは明確ではない。以上の 10 ヶ所のところで次年度は活動参加したいと考えている。

2. 次年度調査に向けて

後期、子ども食堂や学習支援等の活動参加で先輩方や東園君と北村さんの継続した活動参加とその報告が事細かくそして具体的に丁寧に報告されていた。私も先輩方や 2 人を見習いながら、後期に沢山のインターネットサイト等で調べ上げた活動場所に連絡し自分なりのペースで活動していきたいと考えている。

また、活動参加をしていく中で子ども食堂や学習支援等に来る子どもや親御さんに話を聞いたり、運営している方々や同じようにボランティアに来ている方々に話を聞いたりしたいと考えている。例えばだが、先ほども述べたように岐阜で活動参加したいという想いがあるため今後も地域密着型というテーマをおいて活動していきたいと考えている。そのため、運営している団体や個人に「なぜ、そこで（その地域で）子ども食堂なり学習支援等の活動をしようと思ったのか。」という質問を中心にテーマに関連することをインタビューして知り

たいと考えている。さらに、小学生や中学生、高校生、大学生といった学生だけではなく社会人でも高齢の方でも来られるような、幅広い世代の方が気軽に来られる安心していられる「居場所」を作ってあげれるようにしたいと考えている。特に、調べ上げた 10 ヶ所の活動団体の活動内容も「居場所づくり」をしているところが多かった。色々な人にとっての「居場所」の存在の大きさは大きいと考えられる。私にとっての居場所は、落ち着くし、なんでも話せる場所がそうだ。しかし、一からその居場所を作ろうと思ったら、上がってくる問題点は沢山あるだろう。特に、現在は新型コロナウイルスという先が見えない状況でやり方にも制限があり、人数に制限があり、感染対策をしっかりととらなければならなかったりして難しいと考えられる。そういった状況下のなかでも工夫して活動しているところもある。だから、どういう工夫をして沢山の支援をしているのかもインタビューできたらしたいとも考えている。

そして、フードパントリーでの食材に関してでは、第 14 回のゼミで北村さんが売れ残りの食品の受け皿について意見を述べていた。私はつい最近、テレビを見ていてこんな話を聞いた。それは、防災対策として備蓄していた食料の期限がせまっているものを子ども食堂やフードパントリーに寄付している、そのネットワークの存在があるという話だ。取材された企業では、社員約 1000 人分が 3 日過ごせる食料が備蓄されており、賞味期限・消費期限が切れる一年前に新しい備蓄食料品を購入しているそうだが、期限が近いものをどうするのかを考えなければならなくなったそうだ。処分するには物凄い量だし、社員に配っても残るということで最近、この企業は子ども食堂やフードパントリーを運営している団体にそういった備蓄されていたが期限が近い食品を寄付しているそうだ。そこで、こういった備蓄していたんだけど処分に困っているという企業の方がいれば私たちが仲介役として寄付のネットワークを作り、橋渡しのようなことができればいいなと思う。

そこで私たちは、今年度の参加報告を発表した後、次年度に向けての話し合いで食材のマッチングアプリ型の仕組みを作ればいいのではないかという意見が出た。昨今、SDGs が世界的に話題となっている。そして、その目標達成のために掲げられている 17 の目標がある。その一つに「つくる責任　つかう責任」という目標があり、その中に 11 項目の具体的なターゲットが設定されている。その一つに「2030 年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食料の損失を減少させる」がある。つまり、食品ロスをなくすということである。この食材のマッチングアプリ型の仕組みをすればいいのではないかという提案意見は、すでに先輩方で提案されている方がいた。特に、竹中さんの卒業論文では、食材の寄付の大きな問題を出会いの場がなかなか見つけにくいと考え、昨今進んでいる晩婚化で出会いの場がなかなかないという声から生まれたマッチングアプリに置き換えて考えることはできないかと提案されていた。そして、竹中さんは、マッチングアプリは、出会いを求める人々がアプリ上に表示された他人の写真・性別・年齢・学歴・居住エリア・趣味などのプロフィールを参考に、自分と息が合いそうなパートナー候補を見つけ、交際に発展させることを目的とするならば、この構造を寄付の構造に当てはめて考えると、寄付を求める子ども食堂は開催場所・人数・求める物資・欲しい日にち等を、寄付を行いたい企業・団体は寄付できる物資・対象年齢（どの年齢層向けか）等を書いておく。そこでマッチングが出来るようになれば企業は気軽に、子ども食堂は頻繁に多く、多種多様な支援を受ける事がきるのではないかと考えられていた。私は、竹中さんの卒業論文の今回のことについての該当部分を読ませていただい

て、この食材のマッチングアプリ型の仕組みの提案に具体的にマッチングアプリに置き換えて考えられており、納得できる部分が多かった。しかし、竹中さんや安松さん、上條さんの卒業論文の今回のことについて該当する箇所を読ませていただいて私もこの食材のマッチングアプリ型の仕組みについて課題点があると考えた。ネットワークを作る上で信頼というのが必要で重要なことであることと食材を保管する倉庫やその大きさはどうするのかということである。これ以外にも課題点はあると考えられるが、3人の方の卒業論文を読ませていただいて私が考えた課題点は先ほどの2点である。この食材のマッチングアプリ型の仕組みを形になるようなモノにしていくために、次年度にむけて調査したいことがある。食材の寄付をする側と寄付される側の両方の立場から食材の寄付についてのインタビューを行ってみたい。現時点では、食材の寄付など社会貢献活動をしているバローホールディングス様へのインタビューを考えている。食材を寄付する側は、協力しているこども食堂さんの数およびどのくらいの食材を寄付されているのか、社会貢献活動をしていることによって社内で変化したことがあったのか、社員の様子に変化はあったのか、もし、食材のマッチングアプリ型の仕組みを作るとすればどのような仕組みを作ってほしいのか等をインタビューしたいと考えている。

以上の2点、子ども食堂や学習支援への活動参加と居場所づくりのためにしていることや食材のマッチングアプリ型の仕組みに向けての企業へのインタビュー活動を次年度は行っていきたいと考えている。しかし、コロナ禍というのは今後も変わらないため思い通りに行くとは限らない。そのため、現地調査は難しいと考えられる。方法としてオンラインという方法もあるため同時に行っていけたらと考えている。

参考文献

・認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえむすびえ – NPO法人 全国こども食堂支援センター（musubie.org）
・岐阜県社会福祉協議会社会福祉法人 岐阜県社会福祉協議会（winc.or.jp）
・岐阜市市役所岐阜市公式ホームページ（gifu.lg.jp）
・岐阜県庁　県民生活課岐阜県公式ホームページ トップページ（gifu.lg.jp）
・子ども食堂ぎふネットワークこども食堂ぎふネットワーク（mtec-hp.com）
・SDGs17の目標 ¦ SDGsクラブ ¦ 日本ユニセフ協会（ユニセフ日本委員会）（unicef.or.jp）2022年1月22日閲覧
・竹中さん、安松さん、上條さんの卒業論文